

常任委員会の審査から

総務企画委員会

財源確保や財政健全化に向けた取り組みは
企業誘致などの取り組みにより
税源確保に努める

問 生産年齢人口が急激に減少する中、財源の確保や財政健全化にどう取り組むのか。

答 人口減少社会では、生産性の向上に向けた取り組みが重要であるため、企業誘致の補助金を1件あたり最大50億円から100億円と大幅に拡充した。企業誘致にしっかりと取り組むことなどにより税源の確保に努めていく。

問 今回作成されたカスタマーハラスメント対応フローの詳細は。

答 職員を守るために、組織的に対応することを基本的な考え方としている。課長補佐などが担当者の対応状況に目を配り、苦慮している場合は対応を交代するなどにより負担軽減を図る。また、困難事例には弁護士への相談体制を整備しており、組織として適切に対応していく。

問 シン・いばらきメシ総選挙出品グルメについて、地域での現在の提供状況と普及に向けた今後の取り組みは。

答 現在、出品事業者での販売が多いが、一部地域では複数店舗で提供している。さまざまな場所で提供できるように、グルメの横展開支援や都内

のプロモーション、コンビニとのコラボレーションなどに取り組んでいく。

問 NPO法人ふるさと回帰支援センターの移住希望地ランキングでは、群馬県が1位、栃木県が3位、本県は20位圏外だったが、受け止めは。

答 当該他県ではセミナー回数の増加などが伸びにつながっていると聞いている。本県も同センターへの相談窓口の設置や、市町村と連携しさまざまなセミナーなどを実施しており、相談者の増加に向けてしっかりと取り組んでいく。

(ほかに、住民提案のインターネット受け付け状況、既存事業を踏まえた地域公共交通経営改善支援事業の展開なども質問)



東京で実施した移住セミナーの様子

防災環境産業委員会

インド人材の確保に係る
取り組み状況は
現地の送出機関と県内企業の
パイプ構築を推進する

問 県はインド人材の確保に向けて、現地でノウハウを有する送出機関を発掘し、県内企業や業界団体とマッチングを行うとのことだが状況は。

答 在インド日本国大使館から紹介のあった2カ所の送出機関について、2月に県内企業による視察ツアーを行い、参加企業から高評価をいただいた。引き続き送出機関と県内企業の橋渡しを行い、両者のパイプ構築を推進していく。

問 ものづくり企業の海外の販路開拓は重要であると考えている。今年度のドイツ・タイでの取り組みの成果は。

答 初の海外展開となる企業を含め21社が参加し、940件のブース対応、125件の商談を行った結果、2月末時点で3件、720万円の成約につながった。引き続き、専門家の伴走支援を継続し、成約件数や金額の上積みを図る。

問 ナガエツルノゲイトウ駆除対策事業の内容は。また、防除技術確立のため研究機関との連携にどう取り組むのか。

答 著しく繁茂し実被害の発生が見込まれる箇所について、基準を設け、この基準に該当したものを駆除していく。ま

た、防除技術については、農研機構と連携し、駆除した残渣の減量化や薬剤の開発に向けた調査・研究に協力している。

問 2回目となるLPガス料金負担軽減支援事業について、全ての事業者が参加するようどう取り組むのか。

答 前回はシステム改修など体制が整わず、全事業者のうち約2割が参加しなかったが、全国で支援事業が行われ、事業者の体制も整ってきているものと考えている。県も業界団体と連携して、事業者へ周知し、参加を呼び掛ける。

(ほかに、新型コロナウイルス感染症関連貸付金・協力金の悪質事業者への対応、避難所環境改善に向けた備蓄なども質問)



令和6年11月開催の展示会における商談の様子(タイ・バンコク)

保健福祉医療委員会

県立中央病院と県立こども病院を統合し、
どのような病院にするのか
がん、小児および周産期医療については県央・
県北の揺るがない拠点となる病院にしていきたい

問 県立中央病院と県立こども病院の統合が発表された。県民のためにどのような病院にしたいと考えているのか。

答 高度急性期医療を担うフックアップホスピタルの名に恥じないよう、がん医療、小児医療および周産期医療の三つの医療分野は少なくとも、県央・県北地域の揺るがない拠点となるよう努力したい。

問 少子化が進んでいる中、小児医療の重要性が増していると考えている。こども病院と中央病院との統合によって小児医療が後退することはないか。

答 こども病院は、県の小児医療における大変重要な役割を果たしている。こども病院が担ってきた高度医療を維持・強化し、より高度なレベルまで引き上げたい。今後、小児医療の提供機会が減少することとなるからこそ、統合により効率的な病院運営を行い、高度な小児医療を守っていききたい。

問 救急搬送時に搬送対象者の臓器提供の意思表示を確認する取り組みを進めてもらいたい。が、所見は。

答 救急現場での確認には課題もあるが、貴重な意思表示

を把握して対応することが、ドナー※1の意思を尊重し、レシピエント※2の命をつなぐことにつながる。課題を解決しながら、進めていきたい。

問 子どものためのさまざまな施策が盛り込まれた茨城県こども計画の検討が進んでいる。作っただけで終わりでなく、きちんと達成してもらいたい。が、どう進めるのか。

答 これからが大切だと認識している。教育・福祉・医療・労働など幅広い分野に関わる計画であるため、全庁的な連携を強化しながら、進捗管理をしつつ進めていきたい。(ほかに、救急搬送における選定療養費の徴収、新型コロナウイルススワクチン接種後の健康被害救済制度なども質問)



再編が予定されている県立中央病院

ことば ※1【ドナー】…死後に臓器を提供する人。
※2【レシピエント】…臓器移植を希望する人。